

嶺南地域の公共交通に関する調査結果の報告概要

基礎資料整理

地域の概況、公共交通の概況について、既存資料、各市町・公共交通事業者からの情報を収集。

整理結果のポイント！

- 嶺南地域の居住者の、クルマ保有、免許保有の割合は高い。（福井県の世帯当たり台数は全国 1 位）
- 通勤・通学でクルマを使う人の割合は概ね 7～8 割。（全国平均は 58%）
- JR 小浜線の利用客は、減少傾向（1990 年から約 6 割減少）。
- 路線バス、各市町のコミバス等の利用は少なく、利用客が極めて少ない路線も多い。ほぼ全てのバス等が主要駅に発着しているが、主要駅に発着するバス停の利用客が必ずしも多いわけではない。

JR 小浜線利用客 OD 調査

8 月の休日、9 月の平日の各 1 日の全便を対象に、小浜線の乗降客数等について調査。

この調査の結果のポイント！

小浜線の乗降客数の状況は…？

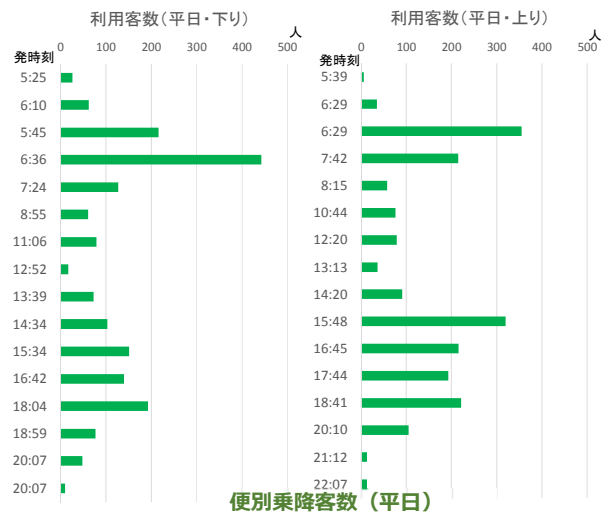
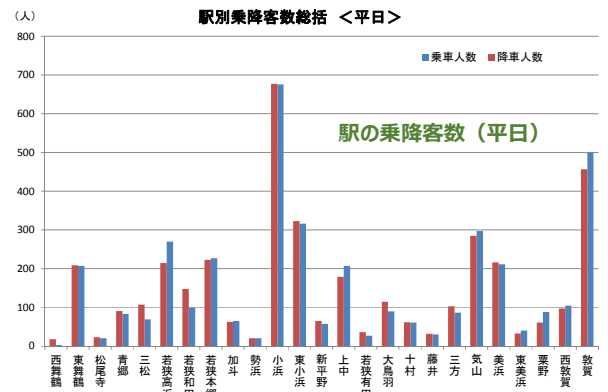
- 調査当日の利用客は、8 月休日 2400 人、9 月平日 3900 人。
- 平日は、通学時間帯の便の利用客が極端に多い。

小浜線の利用客は、どのような人…？

- 平日の乗降客の半数以上は、中高生。高齢者は 1 割。
⇒ 通学の学生が、小浜線のメインの利用客。高齢者は 1 割。

- 休日も、嶺南地域の居住者の利用が多いが、地域外からの来訪者にも利用されている。

⇒ 小浜線は、地域外からの観光客だけでなく、地域住民の余暇のお出かけの楽しみにも寄与。



小浜線の利用前後の交通手段は…？

- 小浜線に乗る前、降りた後は、徒歩、自転車等が大半。バス等に乗り継ぐ人はほとんどいない。むしろ、送迎等のほうが多い。
- バス等⇔小浜線⇔バス等という利用客は極めて少ない。休日の観光等で、他の鉄道と小浜線を乗り継いで来た人で、嶺南地域でバス等に乗り継ぐ人は極めて少ない。

JR 小浜線の利用客へのアンケート

小浜線の利用客にアンケートを直接配布し、郵送回収。(回答者数 205 人)

この調査の結果のポイント！

小浜線の利用客の状況は…？

- 駅で、バス等に乗り継ぐ利用客は、極めて少なく、送迎等のほうが多い。
特に目的地側では、乗り継ぎなし（徒歩等）が多い。

⇒目的地側で、多くの人が、小浜線を降りてから徒歩圏にしか行っていない。

- 嶺南地域の居住者でも、“いつも乗る小浜線の区間以外によく利用する区間のある人”は少ない。

⇒居住者でも、ほぼ決まった区間（駅）しか利用していない人が多い。

利用客にとっての、小浜線の魅力は…？

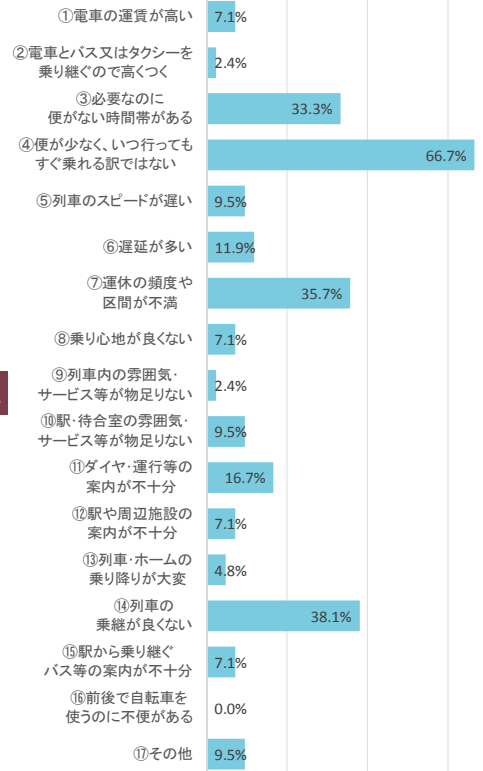
- 小浜線の良いところ：居住者は、「慣れている、親しみがある」、
来訪客は、「雰囲気や景色が良い」。

⇒居住者にとっては安心感、来訪客にとっては風情・景色が、小浜線の魅力。

利用客からの、改善の希望は…？

- 嶺南地域の小浜線・バス等を使ってどこに行けるか、
認知・理解していない人が多数。
- 改善の希望は、「便」に関することと、「運休」に関するものが、多数。

小浜線に改善してほしいこと（嶺南地域の居住者）



バス等の利用客へのアンケート

路線バス・コミ等の利用客に直接配布及び車内据え置きし、郵送回収。(回答者数 162 人)

この調査の結果のポイント！

バス等の利用状況は…？

- 利用客は、自宅からバス停が近い人が大半。
多くが、買い物、通院の日常的な目的に利用。
- バス等を利用する人の行き先は、ほぼ、住んでいる市町内。
小浜線など他の手段と乗り継ぐことは少ない。
⇒他の市町への外出に、バス等はほとんど使われていない（駅まで行かず、市町内で済む外出）。
- 片道のみバス等を利用し、もう片方はタクシー、送迎に乗る人が少なくない。

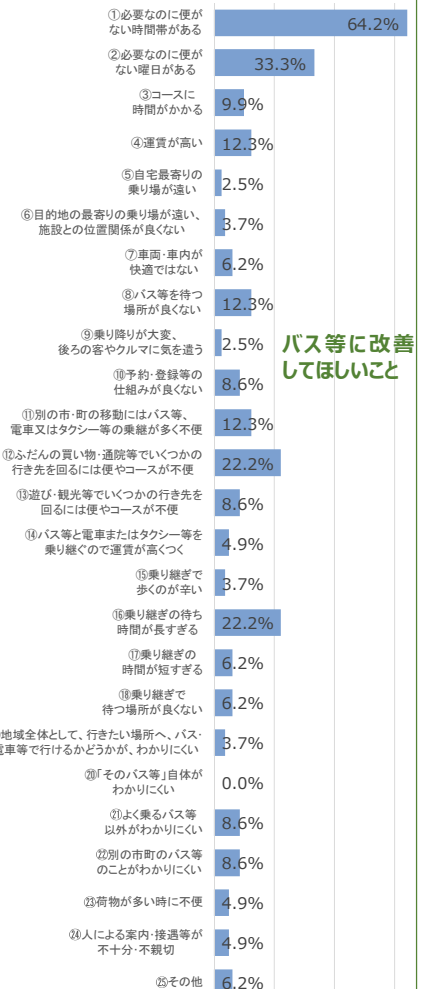
利用客にとっての、バス等の魅力は…？

- 自宅等の近くで乗れること、料金が安いことに次いで、
乗りなれていること、親しみがあることがよいとの意見が多数。
特に、乗務員を評価する声が多数。

⇒バス等の乗務員のホスピタリティ、安心感が、人気のポイント。

利用客からの、改善の希望は…？

- 改善希望を記述した人は、全体の半数程度と、少ない。
（記述された中では、）「運行時間帯」、「いくつかの行き先を回るのに不便」、「乗り継ぎの待ち時間」等。



バス等に改善してほしいこと

居住者へのアンケート

各市町で無作為抽出した居住者へ、郵送配布・郵送回収。(回答者数6市町計1678人)

この調査の結果のポイント！

各市町の居住者の、市町間の外出状況は…？

- 普段の買い物は、居住する市町内で済ませている人が多い。
通院では、4町から、町外へ出かける人が多い。
趣味・遊び・時々する買い物では、他の市町へ出かける人が多い。
- 他の市町への外出は、「美浜町→敦賀市」、「若狭町→敦賀市・小浜市」、「おい町→小浜市」、「高浜町→舞鶴市・小浜市」の外出が多い。
滋賀、京都方面への外出もある。

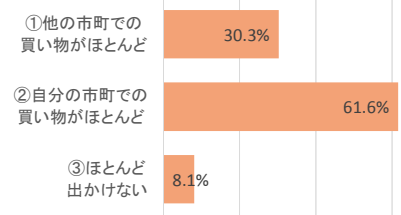
⇒ 日常生活は市町内で済んでいる外出が多く、頻度は少ないが、市町外（病院、大型店等）への移動ニーズもある。

外出時の交通手段の選択状況、行動パターンは…？

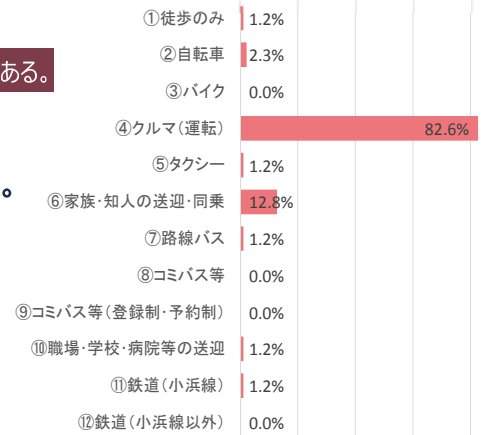
- 他の市町への交通手段は、大半が「クルマ」。「小浜線」を利用する人は少数。「バス等」の利用者は僅少で、「送迎・同乗」のほうが上回る。
- 市町外へ出かけた際は、複数の場所を回る人が多数。
- 「300m先」へ行くのにも、「クルマ」を選択することがあり得る人が多い（何れの市町でも約3割も）。
「100m先」で「クルマ」を使うことがあり得るという人も。

⇒ 大半の人がクルマ中心のライフスタイル。額南地域の居住者は、クルマ志向が極めて強い。

普段の買い物先（額南のある市町の例）



市外での買い物の交通手段（額南のある市町の例）



公共交通の満足状況、改善希望等は…？

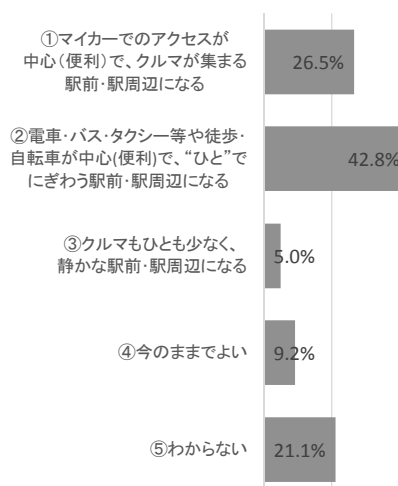
- バス等や小浜線を「使わないのでよく知らない」という人が多数。 ⇒クルマ志向であるため、公共交通が選択肢にない。
- (記述された中では、) バス等・小浜線の「便数」、「最終便」、バス等の「コース」、小浜線の「運休」、外出全体の「費用」、「乗り継ぎ」に関することが多い。「わかりにくい」との声も多い。(バス等への希望は、主に市町内のこと)

将来に向けた、居住者の意識は…？

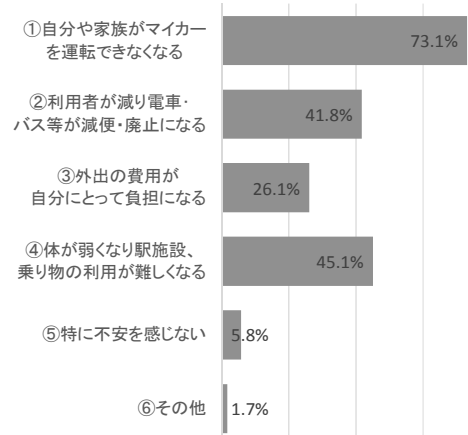
- 将来の「交通手段に不安」を感じる人が多く、「公共交通の充実」に前向きな意見も多い。

- 「公共交通と人が中心で、人で賑わうまち」を望む人が多い。

駅前や周辺が将来どのようなようになってほしいか（6市町の回答者計）



将来の交通手段について不安に感じること（6市町の回答者計）



⇒ 将来の移動手段への不安もある。

高校生へのアンケート

嶺南地域の4校の協力により、各校1クラスの生徒にアンケート。(回答者数4校計134人)

この調査の結果のポイント！

通学の交通手段の状況は…？

- 「小浜線」、「自転車」で通学する生徒が多数。通学で「バス等」を使う生徒は少なく、「クルマの送迎・同乗」のほうが上回る。片道のみ送迎の場合も少なくない。

⇒小浜線は、通学手段の中心。バス等はほとんど使われていない。

休日・夏休み等の交通手段の状況は…？

- 休日、夏休み等に、敦賀市、小浜市や、関西等へ、出かける生徒もいる。交通手段は、「小浜線」のほか、「家族等の送迎・同乗」。

⇒小浜線は、高校生の活発な余暇の行動にも寄与。

高校生の、公共交通への改善の希望は…？

- 通学、休日の外出とも、公共交通への希望は「特になし」との意見が多数。
- （挙げられた中では、）バス等への希望は少なく、小浜線への希望（主に便の希望等）が比較的多い。

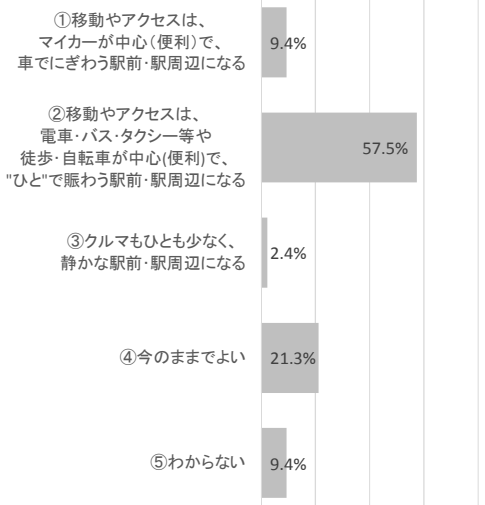
送迎をしてもらっている高校生の意識は…？

- 「送迎者の負担になっている」と思う生徒が多い。

将来に向けた、高校生の意識は…？

- 将来のライフスタイルについて、「公共交通（+徒歩）中心」を望む生徒、「クルマ中心」を望む生徒が、それぞれ存在。
- 高校生の時点では、嶺南地域の駅前や周辺の将来について、「公共交通と人が中心で、人で賑わうまち」を望む生徒が比較的多い。
- 高校生の時点では、クルマ志向が強いわけではない。

駅前や周辺が将来どのようなようになってほしいか



嶺南地域の公共交通に関する今後の取組みメニューについて（たたき台）

各市町と協議会のミーティングを通じて挙げられたアイデア及び考えられるメニュー案を一覧とし、再度、各市町に提示し、「嶺南地域の公共交通に関する今後の取組みメニュー案」について、「意見・アイデア」を収集しました。これらのメニュー案については、あくまでも、現時点で考えられるアイデアに対する意見をうかがったり、新たなアイデアとして考えられるものを挙げて頂いたりしたものです。

それをもとに、今後の「取組み（事業）の方向性」として整理しました。（具体的な実施方法（アイデア、メニュー案）は状況に応じて多様なものが考えられ、継続的に検討していくこととなりますが、今後必要と考えられる取組み（事業）としては、このように集約されます。）

この「取組みの方向性」については、市町だけでなく、委員の皆さまの各視点からのご意見や、さらなるアイデア等も得ながら、また協議会での意見交換を行いながら、絞り込み等を行っていくものです。

これからの嶺南地域の公共交通を考えるための視点（ねらい）

■ 嶺南地域の「居住者等の日常生活」の移動支援、公共交通での外出行動の活発化

考えられる取組みの方向性

(1) 東西方向の基軸である「小浜線」の利便性・安心感を向上させる

(2) 「市町間」の外出に便利な「移動手段」を充実する
(他市町の目的地へバス等で直接行けるようにする等)

(3) 「各市町内」での「移動手段」を充実する
(主要駅での小浜線や、路線バスとの乗り継ぎ利用を前提とする)

■ 嶺南地域全体への「観光来訪、周遊観光等」の促進への貢献

(4) 嶺南地域内の「周遊」に便利な「移動手段」(バス等)を提供する
(小浜線とバス等を組み合わせて周遊できるようにする等)

(5) 公共交通での「来訪」の動機づけとなるインパクトある「乗り物」を導入する

(6) 公共交通を使った「周遊」の動機づけとなる「企画」を行う

(7) 小浜線と「自転車」による「周遊」を促す

■ その他（考え方・ライフスタイルの変容、案内・ホスピタリティの向上等）

(8) 嶺南地域に「住む人」の交通手段選択の「考え方・ライフスタイル」を少しずつでも変える「仕掛け」をする

(9) 不慣れな路線についての案内を充実し、抵抗感を軽減する
(異なる市町へ出かける高齢者、初めての観光客等)

(10) 鉄道・バス等への愛着（まもる意識）を高める